

石鏡での暮らし

海女ビジネスの活躍

地域おこし協力隊として平成30年7月から活動をして頂いた上田茉莉子さんが、6月末をもって3年間の任期を満了したことから、これまでの取り組みや石鏡町での暮らし、今後の活動について紹介します。

企画財政課移住・定住係 ☎ (25) 1227



上田 茉莉子 さん

- 東京都杉並区生まれ・千葉県船橋市育ち
- 早稲田大学文学部卒業（在学中、同志社大学・ウラジオストク極東連邦大学交換留学）
- 株式会社朝日広告社（東京都中央区）にて勤務
- 平成30年7月より地域おこし協力隊として石鏡町へ移住
- 令和3年6月末をもって地域おこし協力隊を退任

鳥羽、特に石鏡のみなさん、改めましてこんにちは。上田茉莉子です。

地域おこし協力隊は退任となりますが、海女として自立し、かつ生活していけるか、食べていけるかどうか、そんな無謀とも思えるチャレンジがしたいと思い、退任後も石鏡に引き続き住み続ける事となりました。

お世話になってる石鏡のみなさんには、受け入れてくださった事、温かく見守ってくださった事に、心より感謝を申し上げたいと思います。

理由はシンプルで、とにかく海女になりたかったから！に尽きます。

大学卒業後は、東京の銀座で夢だった広告代理店の正社員として働く生活を送っていました。都会のキラキラした仕事とお金は得られますが、朝会社に出社し、会議のための会議に出席し、顧客探しに奔走し、夜は原稿やデータの締め切りに間に合わないヒヤヒヤする日常に、物足りないものを感じ始め、何かが違うとモヤモヤする毎日。サラリーマンをやって良かったのは、それを担保に東銀座に小さな住まいをローンで買った事くらいでしょうか。そんな中で出会ったのが海とそこで暮らすみなさんの姿でした。

幼い頃には近くの東京湾三番瀬での海遊び、それが長じてシュノーケリングやダイビングに興じる中で、海女さんのように海のことを獲って暮らす、仕事の楽しさと生活の喜びが一体となった実体のある生活をする事ができないか？と考えるようになったのです。そんな時に知ったのが、鳥羽市が海女後継者を地域おこし協力隊として受け入れてるという情報でした。

移住をした理由

きちんとお話しする機会がなかったため、私が鳥羽市に移住してきた理由について記しておきたいと思えます。



地域おこし協力隊としてのこれまでの主な活動

石鏡の古写真「アーカイブ」 収集・展示

三重大学・海女研究センター・海の博物館共催の写真展「浜の遠声」にて、石鏡の古い写真を借用集積し、生活文化資産の共有に取り組みました（退任後も続行予定ですので、古い写真が見つかりましたらご一報ください）。



海女料理教室の開催

地元の海女料理にくわしいかたにご指導いただき、料理教室を開催しました。市内外のかたに石鏡のおいしいタコやブリ、魚介類をPRしました。



海女のまち暮らしの魅力情報発信

海女のまちの暮らしに密着・取材することで発見できた地域の魅力を、Facebook「とば暮らし」や私のブログ「石鏡のアマゾネス」などで情報発信しました。また、移住相談の各種イベントでは、移住者から見た石鏡町での海女のまち暮らしのPRをしました。



「鳥羽学」に参加

2019年5月より、「鳥羽学」に講師として参加しています（退任後も非常勤講師として継続参加）。「鳥羽学」は鳥羽高等学校と市が連携し、鳥羽の魅力や課題、活性化を考える授業です。私は、マスコミ・ICT（情報通信技術）関連企業を市に紹介し、石鏡の海女さんの協力のもと、生徒による海女VR（仮想現実映像）の制作や、海の博物館での映像展示をサポートしました。



いじかあさいちの開催

海女のまち・石鏡らしさを活かした朝市の立ち上げに携わり、実行委員のみなさんや市と協力し、朝市を開催しました。150人を超えるかたにお越しいただき、地域のにぎわいづくりや、関係人口の交流・増員の機会となりました。



地域おこし協力隊として 石鏡町へ

私が応募した時の石鏡の地域おこし協力隊は、残念ながら海女後継者としてではなく「海女のまち暮らし」のPRを担当する業務となっていました。募集要項に書いてあった「生活の一部として『海女漁も可能になる場合もある』という文言に一縷の望みを掛けて、この地にやって参りました。その結果3年目にしてやっと、地元のかたがたの協力により、漁業権を得て海女見習いをさせていただく事になりました。

何と言っても、石鏡町は海女のまち。海女を中心に世界が回っているといっても過言ではありません。海女業を始めてからは、その世界の片隅に置いていただけたおかげで、町のみなさんとの距離がグッと縮まった気がします。

この頃から、全く獲物も獲れず、ただ海面を漂って吐いているだけだった私に「ちゃんと食っているか？」「生活していけるんか？」と海女さんや漁師さんが心配して、野菜や魚を差し入れてくださり、励ましてくれました。

私のような縁もゆかりもな

い移住者を受け入れる利点はないかもしれませんが、海での仕事を通じて私を寛容に受け入れていただいている現状にどれだけ感謝と敬意を表して足りるのか分かりません。

地域おこし協力隊卒業

退任後、ようやく海女を軸に生計を立てるスタートラインに就きます。正直、海女の修行が足りず不安ですが、鳥羽高校の非常勤講師や、東京での出稼も視野に入れながら、何とか生活できるような頑張り所存です。

石鏡のみなさん、また、海女のみなさん、未熟者ですが、これからもご指導ご鞭撻のほど、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

「海女ゾネス」…石鏡の海女さんを誇らしい女性たちととらえ、ギリシャ神話に登場する女性だけの狩猟部族「アマゾネス」になぞらえてつけました。



海女ゾネスのノベルティを作成して移住相談のイベントで配布